

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（2月号）

1. 鳥取県農協青壮年連盟との意見交換会を開催（JA全農とっとり）

令和2年1月14日、鳥取県農協青壮年連盟との意見交換会を行った。今年で2年目となる意見交換会には、青壮年連盟の委員6名と事務局の参加のもと、全農の事業紹介や情報提供などを行った。若手生産者を代表した意見やJA事業に対する質問・要望等、活発な意見が交わされた。



2. JAバンクアプリ誕生（JA鳥取信連）

令和元年12月19日、『JAバンクアプリ』がリリースされた。JAバンクアプリは、インターネットバンキングと異なりスマホとキャッシュカードがあれば口座開設と同時に利用が可能であり、利用者を選ばない簡易な操作性を備えている。

また、アプリから他のJAバンクサービスへの導線も確保していること、他のサービスと比べ参照可能な口座種類や照会期間に優位性があることから、非対面サービスの入り口として幅広い利用者が利用できる。その他、JAネットバンクへの申し込み、口座開設や住所変更手続（郵送で完結）、各種サービス内容（年金、JA共済等）が容易に確認できる。



(6) 「LA管理者特別研修会」の開催について（JA共済連鳥取）

令和2年1月15日、鳥取県下の各JAのLA管理者40名が一堂に会し、株式会社UBF代表の東講師による「LA管理者特別研修会」を開催した。今回は特別研修として、「ひと保障をLAに定着するために再考したいこと」というテーマのもと、商品提案ではなく、情報提供する知識を整理することの重要性をメインに組合員・利用者の満足度向上につながる研修を行った。



■研修概要

ひと保障ベーシック※を軸に「3Q訪問活動から推進につなげていく方法」や「社会情勢（新聞記事等）からお客様に情報提供をすることの重要性」、「社会保障制度を絡めた推進話法」について研修。

※「ひと保障ベーシック」とは「ひと保障」推進における訪問準備から活動管理までの基本的な方法・流れ（具体的行動）

■総括

研修の随所にグループ討議の時間を設け、他JA・他支所（店）の共済課長同士での意見交換が活発にされるなど、活気のある研修会となった。次年度以降もより「組合員・利用者の満足度向上」につながる研修会の実施に向け、JAと連合会が一体となり取り組んでいく。